

■ **渋川春海** 天文学者。碁方安井算哲の子。棋力の限界を悟って天体観測に専念、貞享暦を完成し天文方世襲へ。

しぶかわしゅんかい
鎖国令・・・1639＝

京都四条室町の屋敷で、江戸幕府碁方の安井家初代算哲が実子が無く養子算知を迎えた直後に生まれる。
幼名は六蔵、諱は都翁、通称は助左衛門、号は新蘆。姓は安井から保井さらに渋川と改姓。

幼時から理髪で向学心が旺盛、

・・・・・・1645＝ 6歳：この年から8年間、空位となっていた名人位を巡って算知が本因坊算悦と打った六番碁は、日本最初の争い碁として有名になる。

市中諸法度・1648＝ 9歳：

徳川家光没・1651＝12歳：初めて江戸に下向し、將軍家綱の前で囲碁の手並みを披露、
承応事件・・・1652＝13歳：父が死去して、二世安井算哲となるが、実質的には棋力際立つ算知が継ぐ。
この間、数学を池田昌に、天文暦学については松田順承から宣明暦を岡野井玄貞から授時暦を学ぶび、
当時の日本が用いていた宣明暦が800年前に唐よりもたらされたままだったため、月食・日食の予報が二日も遅れるなど、かなりの誤差が生じていたことから、授時暦による改暦を志すようになるとともに、関心の強かった神道の奥義を究めようと、垂加神道を山崎闇斎に、土御門神道を土御門泰福に学ぶなどして、水戸光圀や保科正之らの知遇を得、のちの改暦の強力な支援者となって行く。

明暦の大火・1657＝18歳：この年、本因坊算悦が死去し、後を継いだ本因坊道悦と算知の二十番碁が始まる。
人身売買禁止1658＝19歳：幕府より禄を受け、御城碁に初出仕、本因坊道悦に黒番4目勝ちする一方、中国の授時暦に基づいて山陰・山陽や四国の各地の緯度・経度を計測するなど、実地天文学へ取り組み始め、
朱舜水帰化・1659＝20歳：

・・・・・・1664＝25歳：2回目の御城碁、以後4年連続本因坊道悦と対局。
諸宗寺院法度1665＝26歳：
酒井忠清大老1666＝27歳：
入鉄砲出女令1667＝28歳：
足利学校再建1668＝29歳：この年、算知がようやく名人碁所になる。6回目の御城碁で本因坊道策と対局、以後ほぼ毎年続く。

・・・・・・1670＝31歳：この年の本因坊道策との御城碁で初手天元を打ち、'これでもし負けたら一生天元には打たない'と豪語するも負けに終わり、それ以後初手天元をあきらめたばかりか、連敗続く。自らの棋力の限界を悟り、和算家としての実力を自覚したのか、以後、改暦という大事業に目標を据え、天体観測に専念し始め、
越後屋オブン 1673＝34歳：その結果を元に、満を持して改暦を願ひ出るが、
談林派俳諧・1675＝36歳：この時"地方時"の存在を主張したように、中国や西洋で地球という考えのあることを既に知っていて、
宣明暦で予測できたこの年の日食予報が授時暦ではずれて、申請は却下され、衝撃を受ける。はずれた原因が中国と日本に里差(経度差)があることに気づき、授時暦に通じていた朱子学者中村惕斎の協力を得ながら、自己の観測データを元に日本向けに改良を加えて行くことにし、
・・・・・・1676＝37歳：この年、前年までの対局で本因坊道悦に圧倒された算知が名人碁所を返上して隠居。
・・・・・・1677＝38歳：本因坊道悦が道策に家督を譲った年、碁所に遠慮してか、保井姓に改める一方、神武天皇以来の暦本「日本長暦」草案を作成し、中国ではなく日本で観測された星図「天文分野之図」を完成。

藤十郎登場・1678＝39歳：本因坊道策が碁所に任じられた際には、これに先の手合、上手並み(七段)とされる。
徳川綱吉將軍1680＝41歳：
好色一代男・1682＝43歳：この年の御城碁で本因坊道策に惨敗し、
八百屋お七・1683＝44歳：道策の実弟井上道砂因碩にも大敗、最後の御城碁となり、*事実上棋士人生は終わる。8年の歳月をかけて大和暦を完成、再び改暦を上表。この年には逆に宣明暦が間違いを犯して、自信を持つも、京都所司代稻葉正往の家臣谷宣貞(谷時中の子)に反対され、陰陽師頭就任直後の土御門泰福から土御門神道の奥秘も受けた後、三度目の上表。暦道の最高責任者でもあった泰福を説得して、ついに採用され、

堀田正俊暗殺1684＝45歳：日本初の国産暦による貞享の改暦となり、暦の権威までもが朝廷から幕府に移ったことを示し、
出世景清初演1685＝46歳：西鶴の「暦」と近松門左衛門の「賢女手習併新暦」と早速浄瑠璃作品にもなり、*この功により、幕府初の天文方任ぜられ、碁方は辞した。以降、天文方は世襲となる。
・・・・・・1686＝47歳：幕府の命令で京都より家族とともに江戸麻布に移り住み、
・・・・・・1689＝50歳：本所に天文台の建設が認められた。
湯島聖堂・1690＝51歳：日本で最初の地球儀(直径25cm)を製作。
世間胸算用・1692＝53歳：幕府から武士身分が認められたことにより、蓄髪して助左衛門と名乗り、
奥の細道・1693＝54歳：
生類憐令頂点1695＝56歳：
・・・・・・1697＝58歳：直径33cmの地球儀も作っている。

赤穂浪士討入1702＝63歳：先祖が領していた河内国渋川郡に還ったことから、本来の姓渋川に改姓し碁家から完全に決別。
赤穂浪士切腹1703＝64歳：天文台は更に駿河台に移された。

徳川綱吉没・1709＝70歳：

冥途の飛脚・1711＝72歳：嫡男である昔尹に天文方の地位を譲って隠居、

西洋紀聞・・・1715＝76歳：昔尹が子供のないまま急死すると、後を追うように、没した。
著書に天文暦学の「三暦考」「貞享暦書」「天文瓊統」、神道の「瓊矛拾遺」がある。地球儀のほかにも、天球儀・渾天儀・百刻環(赤道型日時計)などの天文機器を作成している。